

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都足立区東綾瀬2-12-13
園名	足立区立東綾瀬保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ> 「水と光」

<テーマの設定理由>

広い園庭を活用し、日頃から水を使って大胆に遊んでいる子どもたちは様々な遊びの中で感じたことや考えたことを言葉にしたり、自分なりに試してみたりする様子がみられる。また、光と影や水に触れる中で光の変化に対しても気づきや発見がある。

こうした子どもの発見や疑問等について保育者が環境を整え一緒に考えたり、試したりしていくことで子どもたちの探究心を満たし科学的思考の芽生えを育んでいきたいと考えている。

2. 活動スケジュール

- 第1回 7月11日(木) 講師による保育観察、テーマ決定、探究の進め方、個人情報取り扱い等
- 第2回 9月19日(木) 活動内容打合せ、講義「探究実践の進め方」
- 第3回 10月28日(月) 実践活動、評価・共有、次回打合せ
- 第4回 11月5日(火) 実践活動、評価・共有、次回打合せ
- 第5回 11月15日(金) 実践活動、評価・共有、次回打合せ、公開保育準備
- 第6回 12月9日(月) 公開保育、協議会、講師講評、次回打合せ
- 第7回 1月23日(木) 実践活動、評価・共有、次回打合せ、冊子作成
- 第8回 3月6日(木) 事例検討、冊子作成、年間反省、次年度に向けて

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

各種透明カップ・小分け容器・スポイト・スプーン・白色テーブルクロス・透明テーブルクロス・水彩絵の具・食紅・レモン汁・重曹・洗濯のり・ボンド・パレット皿・樋・ライトボード・懐中電灯・デスクライト・白布・水遊び用テーブル・透明ボウル・透明洗面器・カラーポリ袋

4. 探究活動の実践<活動の内容、活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

【3歳児】 こうしたらいいんじゃない？

「いっぱい掘らないとだめなんだよ。チンアナゴは水の中にいて…」と言いながら砂場でYが穴を掘る様子を見てHもシャベルで近くに別の穴を掘りはじめた。Yが突然「チンアナゴはトンネルから出てくるんだ！」と穴を掘ったところに近くにあった塩ビ管を立て、砂をかけて倒れないように埋めた。塩ビ管を埋めたYは「チンアナゴには水がないとだめなんだよ、死んじゃう！ねー水を流して！」とHに向かって言う。「水？わかった！」と雨樋を持ってきて水道と砂場の間にあったタイヤの上に乗せるH。Yも雨樋を持ってきてHの置いた雨樋と砂場につながるように並べ、ジョウロで水を流してみたが雨樋に傾きがないため水が流れていかない。「もっとあれみたいに！（タイヤが積み重なっているのを指さす）」とH。Yが「あれってなんだよ！」と少し怒った口調で言いはじめた。「太鼓橋の下にあるタイヤみたいな感じで雨樋の下を高くするってこと？」と保育者が問いかけると「うん」とH。Yにも伝わったようで近くのタイヤをひとつ持ってきて重ねたタイヤの上に雨樋を置いた。Yがまた水を流してみるが、雨樋が重なっている部分から水が漏れてしまいまた砂場まで流れていかない。そこにY2が来て「俺、天才だからできるよ」と雨樋の重なっていた部分を間がなくなるように合わせてくれた。

【4歳児】 水滴づくり

Oが食紅や透明コップ、スポイトを自分で用意して色水づくりをはじめた。「先生見て！ピンクになった！」と出来上がった色を保育者に見せてきた。そばにいたSもOと同じように色水を作り、スポイトを使って混ぜていくが、力加減が強かったため勢いよく緑色の色水が飛び出してしまふ。テーブルの上で揺れる緑の水滴をじっと見ながら「これぷるぷるしている。なんかきれい。」とS。Sが感じたことを遊びにできないかと考え、白い画用紙を見せ「これ使う？」と聞いてみる。Sはスポイトを使っていろいろな色の水滴を画用紙に垂らしていく。

Kも真似をして画用紙に水滴を垂らし「グミみたい」と笑っている。Kは同じ場所にスポイトで垂らし続けるため、水滴ではなく色水が溜まってしまうのでSは「(水滴が) 近すぎると繋がっちゃうよ」とKに教えている。

【5歳児】影

Aは洗濯ばさみをつなげて遊びはじめる。「あ、見て見て！」と声を上げる。保育者の服に洗濯ばさみの影が映っていた。「ほんとだね。今度はこっちに映してみようよ」と保育者がテラスの窓を指をさすとAは「いいね！もっと作るね」と洗濯ばさみを次々につなげていく。保育者が窓に白いシートを貼り、洗濯ばさみで作ったリボンの影を映してみる。Aも真似をして影を映すが「ちょっと待って」と白いシートに対して映した影が小さいと感じ、もっと大きなものを作ろうと思ったのかりボンを分解し、たくさんつなぎ直してまた影を映す。Bも一緒に洗濯ばさみをつなぎはじめる。「なんかクジャクみたい！」とA。「ほんとだね。くじゃくの羽みたいだね」と保育者が共感するとBが「ここがくちばし。なんだと思う？」と問いかけてくる。「鳥かな？」と保育者が答えると「正解は白鳥！」とB。影遊びはいつの間にかクイズになっていた。

5. 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

【3歳児】

ア Hはチンアナゴが分からなかったため、Yの話聞き、「Yの水がないと死んじゃう、流してほしい」というイメージを汲んで雨樋を自分で考えて持ってきている姿に感心した。

イ 最初に雨樋をつなげ水が流れなかったときに、Hは積み重なっているタイヤに指をさし、Yに水が流れる工夫を伝えていた。「水を砂場のほうに流すには…」と今までの経験を思い出しながら、考えているのだと感じた。YはHの「もっとあれみたいに！」という意味が伝わらず、思うように水が流れなかったため、「あれってなんだよ！」と少し怒った口調で言ったのだと思った。

ウ お互いに水を砂場に流したいという思いはあると感じたので保育者が言葉で伝えていった。



【4歳児】

ア 色水づくりは意図して色を作るのではなく、混ぜてみたらこんな色ができたという偶然を楽しみながら繰り返し取り組んでいた。ただ、遊びが見つからずやることがないから色水づくりをするといった姿も見られ、保育者自身も色水づくりの遊びに停滞を感じていた。

イ 子どもたちが作った色水を紙に写したり染み込ませたりできるよう画用紙や和紙など様々な素材の紙を準備し、提示するタイミングを見計らっていた。保育者がSの気づきに感知し遊びや探究に繋がっていかないと考え画用紙を提示してみると、画用紙の上では水滴は丸いままの形で落ち、Sは面白がって繰り返し垂らしていた。

ウ さらに繰り返し遊ぶ中で水量による水滴の大きさの変化や水滴同士が近い時の様子などにも気が付いていた。



【5歳児】

ア 偶然できた影を見てわくわくしている様子があったので、そこから影を使った遊びができないかと考え、影が見えやすいように白いシートを用意した。子どもからも「もっとこうしたい」という思いが伝わり、さらに良いものを作ろうとする姿に共感していった。

イ たくさんつなげて作品を作ったことでつなげる洗濯ばさみがなくなると、子どもたちのわくわく感が落ち着いてきた様子が見られた。もう少し遊びが盛り上がっているときに子どもと対話をしながら環境を再構成する必要性を感じた。

